1

芭蕉最北の宿・二夜庵跡

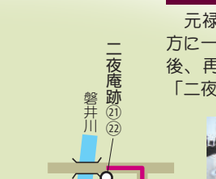
元禄２年（1689）新暦6月28日の夕方に一関に着き宿泊。翌日は平泉を視察後、再度宿泊していることから、後に「二夜庵」とよばれるようになった。

奥州街道と上街道（迫街道）の分岐点

一関市台町地区にあり、左側は古川、仙台に向かう旧奥州街道。右は岩出山に向かう上街道で80ｍ程先の左側に元文元年（1736）に立てられた道標がある。

苅又一里塚

江戸時代初期に築造されたもので、対をなす鉢を伏せた形の盛土は、今も原形をとどめている。江戸時代の姿を伝える数少ない遺構である。



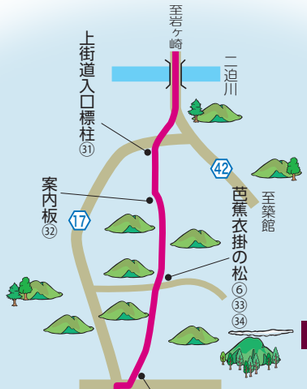
蔵主沢

㉓から3ｋｍ程先にある。道が三つに分かれるが、中央の山に向かって伸びている山道が上街道で、傍らに「奥の細道蔵主沢」と書かれた標柱が立っている。

2

上街道（片子沢）入口の標柱

岩ヶ崎より県道築館栗駒公園線を南下し、二迫川に架かる島巡橋を渡った所の分岐点から1km程先の県道栗駒岩出山線と交差した市道にある。



芭蕉衣掛の松

㉛から南下し突きあたる山の頂に芭蕉が衣を掛けて一休みしたとされる松がある。現在は切り株が残るのみで、保存のための覆いが建てられている。

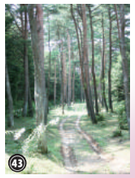
秋葉神社

真坂宿の中にあり、芭蕉の時雨塚が建っている。

3

千本松長根

約1,500ｍの尾根伝いの両側に松並木が続いていたので「千本松長根」の名がついた。
現在でも旧街道の面影を残している。



磯良神社

この地の沼に住み着いたとされる河童の伝説があり「おかっぱ様」とも称され、地域の人々に親しまれている。水利農耕・縁結び・災厄防止にご利益があるとされている。

潜松・潜松古墳群

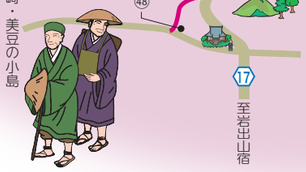
「真山五坂」の一つに潜松坂がある。このあたりの松の枝が交叉し合ってトンネル状になっていたので、潜松の名がついた。また、約1,300年前の古墳が三基ある。

堂の沢

「潜松・潜松古墳群」に行く北の入口。県道に架かる橋のふもとに説明板、標柱がある。

狼塚

昔、狼の出没におびえた村人たちは、この地に壇をつくり鶏と赤飯を供え祈祷した。その後、狼の出没がなくなり、毎年旧暦の３月３日に祭典を行うことにした。



天王寺追分

上野目天王寺坂下にあり、出羽街道から上街道が分岐する地点で、交通の要所であった。芭蕉はここで上街道と別れ、出羽街道を西に向かった。

天王寺一里塚

江戸時代、主要街道に旅人の便宜を図るため一里毎に盛土して塚を築き、松や榎を植えて目印とした。対の塚が現存する全国でも珍しい一里塚。

4

旧有備館

岩出山伊達家の下屋敷・隠居所、家臣の子弟教育の学問所として使用された江戸時代の建物。

芭蕉一宿の地（宿泊先不明）

曾良日記には「岩手山に宿ス」とあるだけで宿泊先は記されていない。しかし、いろいろと調べた結果、仲町の石崎屋に泊まったのではないかと言われている。

5

小黒ヶ崎

平安朝の昔から歌枕の地として有名。全山険しい岩石に包まれ、松の緑の間にカエデやナラなどが昼なお暗く生え茂り、春は満山新緑に、秋は紅となり、道行く人の足をとどめる。

美豆の小島

「小黒ヶ崎」とともに平安朝の昔から歌枕の地として有名。

をくろ崎みつの小島の人ならは
都の苞にいさと言はましを
（古今・大歌所御歌）

矢木のカヤ

樹齢約830年のカヤの木に霞桜が着生して大木となり共生している珍しい木。